

健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
土屋 誉

日本では、糖尿病患者とその予備軍を合わせると2000万人と推計されています。古くは紀元前から記載があり、「水がとめどなく流れ出る（糖尿病の多尿のこと）」という意味で「ディアベーテス」と呼ばれていたとのことです。その後、尿が甘いことから「蜂蜜のよう甘い」というラテン語の「メリタス」を追加し「Diabetes Mellitus (DM)」が病名として使われています。最近、日本糖尿病学会は糖尿病の新しい呼称として「ダイアベティス」を提案しています。

糖尿病は、インスリンが不足して慢性的に高血糖が持続する病態です。血糖を上げるホルモンはいくつかありますが、血糖を下げるホルモンはインスリンだけです。インスリンは臍臓のランゲルハンス島から分泌されます。11月14日はインスリン発見者であるバンティングの誕生日にちなんで「世界糖尿病デー」となっていますが、1921年11月14日は、犬の臍臓からの抽出物を、臍を除去した糖尿病の犬に投与し、血糖を下げる成功したことを報告した日でもあります。その正体がインスリンですが、当時はアイレチンと呼んでいました。

糖尿病とインスリン

11月14日は
「世界糖尿病デー」



【仙台市医療センター仙台オーピン病院
／宮城野区鶴ヶ谷】

実験は29歳の外科医であるバンティングとまだ22歳の学生であったバーストの2人によって行われました。翌年1922年1月には13歳の少年に投与され、病状の改善が臨床で初めて確認されました。これを発端とした業績に対して、1923年には早くもノーベル賞が授与されました。しかし受賞にはベストの名前ではなく、インスリンの抽出実験を自分の夏休みの不在期間中に限ってしぶしぶ許可したマクラウド教授とバンティングに与えられました。バンティングはそれを快く思っておらず、授賞式にも出席せず賞金の半分はベストに分けてあげたそうです。バンティングはその後、第2次世界大戦の最中、搭乗していた爆撃機の墜落により49歳の生涯を閉じました。

ちなみに、東北大学総長、仙台市名誉市民であった東北大学抗酸菌病研究所初代所長の熊谷岱藏先生も同時にインスリンを発見したとされていますが、それはあまり知られていない事実です。

影響は
ずっと。

情報モラル 啓発セミナー

2026年1月16日(金) 13:30~16:10 (受付:13:10から)

場 所 仙都会館8F (仙台市青葉区)

申込方法 QRコードより申込フォームにアクセスしていただき、
必要事項をご記入ください。

参加費
無料

開催方法 リアルとオンラインのハイブリッド開催

対 象 中小企業経営者、中小企業従業員、情報系部門、
日常的に情報を取り扱うビジネスパーソン

主 催 経済産業省 中小企業庁



詳細は[こちら](#)から!
スマートフォン等のご利用
マナーにご協力ください。

そのセキュリティ対策で、万全と言えますか？ 情報資産を守り、信頼を築く。経営に強い企業へ。